



あっさり黙示録

17 『**艱難時代後に起こる三大事件とは？**』

黙示録 11 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はあっさり黙示録 17 回目です。

いよいよ **7 番目のラッパ**が吹き鳴らされた、その時に起こる内容について解説しましょう。

7 番目のラッパが吹き鳴らされるタイミングは、7 年間の艱難時代のちょうど中間期。

すなわち、後半 3 年半に突入する合図が 7 番目のラッパなんです。

艱難時代の前半は、今まで見て来たように凄まじい内容でしたが、後半は、より凄まじい内容となっています。はっきり言って、前半が霞んで見えるほど恐るべき時代となっているので、後半 3 年半を特に大艱難時代と呼んでいます。

早速この大艱難時代の内容、そこに入って行くタイミングで起こることについてご紹介します。

まずあっさり、概要を申し上げます。

ラッパの合図と共に、天で大きな声がします。それは神の勝利宣言。その勝利宣言を受けて、艱難時代の前に携拳されていたクリスチャンたち（教会）が神を礼拝するんですね。

その礼拝の言葉の中に、**艱難時代が終わった後に起こる 3 つの重大事件**について書いてあるんです。今日は、その 3 つの“時”（大事件）についてご紹介します。

黙示録 11 章 15 節

第七の御使いがラッパを吹いた。すると大きな声が天に起こって、こう言った。

「この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。」

第七の御使いがラッパを吹いた。

そのタイミングは艱難時代の中間期。この中間期から反キリスト帝国がスタートするのです。

ところがここを見ると、**この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。**

まさに反キリスト帝国が始まる時に、**なぜキリストのものとなった**と書いてあるのでしょうか？

反キリスト帝国が成立しても たった 3 年半しか続かず、その後で永遠のキリストの御国が続く、ということがあまりにも確実なので、そのように言っているんですね。

ところで、明智光秀が主君の信長を本能寺で討って、一時的に天下人（てんかびと）になりましたね。

これを三日天下と言います。この三日は文字通りの 72 時間ではないんですよ。

三日坊主という言葉があるように、短いというニュアンスを三日で言い表しているわけです。

光秀は実際は 11 日間の天下人でした。しかし秀吉に討伐されてしまった。短い期間だった。

だから三日天下と言っている。が、光秀の滅亡っていつ始まったんでしょう？

信長を討って勝利者になったその時こそが、彼の滅亡の始まりなのです。

信長を討っていなかったら、信長の他の家臣によって討たれることもなかったから。

明智光秀は、勝利者となったことが彼の滅亡・終わりの始まりとなったのです。

それと同じように、反キリストは自分の帝国を成立させ、艱難時代の間中期に天下を取るんですが、自分の帝国を持ったということが、反キリストの終わりの始まりでした。

16 すると、神の御前で自分たちの座に着いていた二十四人の長老たちが、ひれ伏し、神を礼拝して言った。

二十四人の長老たちは、艱難時代前に携拳された教会（クリスチャン）たちのことです。彼らは非常に正確に終末についての知識を持っていて、与えられている知識に基づいて神を礼拝するのですが、その礼拝の言葉の中に、**艱難時代が終わった後に起こる 3 つの大事件**についての説明があるのです。

彼らはまるで歌うように礼拝します。それを考えた時 思い浮かぶイメージがあって、ドラマや映画の冒頭に主題歌・テーマソングが流れますね。その歌詞の中に、そのテーマが描かれていることがよくあります。ここで 24 人の長老たちが歌うように礼拝している言葉の中に、神の偉大な主権を表す 3 つの“時”についての言及があるので紹介しましょう。

18 諸国の民は怒りました、しかし、あなたの御怒り（艱難時代）が来ました。

死者がさばかれる時、あなたのしもべである預言者たちと聖徒たち、御名を恐れる者たち、小さい者にも大きい者にも報いが与えられる時、地を滅ぼす者たちが滅ぼされる時です。

①死者がさばかれる時。

②あなたのしもべである預言者たちと聖徒たち、御名を恐れる者たち、小さい者にも大きい者にも報いが与えられる時。神を信頼する者たちに報いが与えられる時。

③地を滅ぼす者たちが滅ぼされる時。

実はこの 3 つの“時”を時系列で並べると、③が最初で①が最後なんですね。

そこで今日は、**艱難時代が終わった後にやって来る“時”**を時系列順に紹介します。

1. 地を滅ぼす者たちが滅ぼされる時。

地を滅ぼす者たち。複数形ですね。誰を意味しているのでしょうか？

艱難時代、この地上をメチャクチャに荒らし回るものが 3 つあります。

1) サタンと呼ばれる**悪魔**。神に反逆し、人類を不幸に突き落とそうとする悪の存在。霊的な存在。目には見えません。しかし、実在しています。悪魔の存在を抜きにして、人類歴史の不可解さを解明することはできないと思います。

2) 悪魔の力で、この世界を独裁的に支配する**反キリスト**。

3) 悪魔の力で、反キリストを補佐する**偽預言者**と言われるもの。



これらを“悪の三位一体”と言います。これは聖書の三位一体の神の模倣です。この 3 者が一致団結し、人類とこの地上を滅ぼすために、やりたい放題の限りを尽くす。それが、特に後半の 3 年半なのです。しかし、この 3 つは滅ぼされます。

艱難時代は地上再臨のキリストの登場によって終わりますが、その後で、悪魔は“アビス（底知れぬ穴）”に千年間閉じ込められてしまう。

反キリストと偽預言者は“燃える火の池”という場所に放り込まれてしまいます。

これが地を滅ぼす者たちが滅ぼされる時。艱難時代が終わった後のことです。

2. あなたのしもべである預言者たちと聖徒たち、御名を恐れる者たち、小さい者にも大きい者にも報いが与えられる時。

旧約時代の預言者たちを筆頭に、神を信頼していた旧約時代の全ての聖徒たちが生き返り、報いを受けます。

神/キリストの御名を恐れる者たち～反キリストの名を恐れて従ったのではなく、キリストを恐れ・キリストを信頼し・救い主として受け入れた人たち、艱難時代に救われた人たち～多くは殉教者になるでしょうが、この人たちも生き返ります。

殉教せずに生き残った人たちも、ねぎらわれ祝福を受けて、そのまま千年王国に入ります。

死んだ人たちは生き返り復活して報いを受け、生きていた人たちは祝福を受けて千年王国に入る。

千年王国はキリストを王とする国なので“メシア的王国”とも言い、地上の天国です。

罪が入る前のエデンの園のような国が千年間続く、と約束されているんですね。それが始まる時。

これが、艱難時代が終わった後に来るということです。

3. 死者がさばかれる時。

これは、千年王国の終わりに来る“白い御座のさばき”と言われているものです。

まず艱難時代が終わります。そして千年王国。千年経ったら千年王国が終わります。その後、永遠の新天新地が始まります。

この新天新地に入る前に、一般には“最後の審判”と呼ばれる“白い御座のさばき”があるのです。全ての人が死者の状態から復活し、生き返った状態となって、この裁きの座に立ちます。

しかし、この全ての人の中に、キリストを信じた人たちは入っていません。彼らは裁かれない。

彼らの裁きは、既にキリストが身代わりに受けてくださったから。

彼らはその身代わりの赦しを既に受け取っていたので、裁かれることはありません。

裁きを受けるのは、罪の赦しを受けていたにもかかわらず、その完成している罪の赦しを受け取らなかった人たち。その人たちは自分の行いに応じて、正当な裁きを受けることになるのです。

1の〈悪の三位一体の滅亡〉については黙示録 19 章に出て来ます。

2の〈信じた者たちの復活と報い〉については黙示録 20 章前半に出て来ます。

3の〈最後の審判〉については黙示録 20 章後半に出て来ます。

天にいる教会（クリスチャンたち）は、それらのことをよく理解していました。

地上で私たちが聖書研究に励んでも、中々完璧には分かりませんよね。

でも、天では素晴らしい理解力が与えられていて、聖書をほぼ完全なかたちで理解する。

そのように変えられているようです。なので、このように正確な知識に基づく礼拝を神に献げたのです。

実は神への正しい礼拝は、聖書の正しい理解と切り離して成立するものではありません。
なぜクリスチャンが聖書を正確に学ぶ必要があるのでしょうか？
神が命じてもないことで悩んだり、神が思ってもおられないことで悩まされたりすることのない
ためです。本当の深い平安は、聖書の正確な理解から生まれて来るものなのです。

ところで、この天における礼拝の後、地上では4つの合図が繰り出されます。
**19 それから、天にある神の神殿が開かれ、神の契約の箱が神殿の中に見えた。
すると稲妻がひらめき、雷鳴がとどろき、地震が起こり、大粒の雹が降った。**

稲妻、雷鳴、地震、雹。この4つの合図が次々繰り出される。
艱難時代、この黙示録のメッセージを聞いているけど信じなかった人たちは、自分たちが聞いていた・
預言されていた内容そのままが目前で繰り出されるのを見た時、どのように思うでしょう？
「聖書預言・黙示録の預言は世迷い事ではなく、本当に信頼に足るものだ」と分かるのではありませんか？
そのような人たちは艱難時代において、きっとキリストに立ち返るに違いないのです。

神を信じキリストを受け入れるためには、聖書の言葉は間違いのないものだということ、やはり
確信したいと思うのです。確信するためには、その根拠が必要ですよね。
「聖書は誤りのない神の言葉で、信頼してもいいんだ」という根拠が必要です。

その根拠って何でしょう？ 聖書預言の成就。終末預言の成就です。
聖書の預言は、語られた言葉がその通りに、この見える世界の中でも実現している。
それを確認することによって、まだ実現していない聖書の預言も必ず実現する、と信頼できるよう
になるのではないのでしょうか。
あっさり黙示録を通して、聖書の言葉の信頼性を感じ取っていただければ本当に幸いです。

まだキリストを信じていない方は聖書の約束の真実に立って、あなたを愛し、あなたに必要な全て
を準備してくださっているキリストを ぜひ受け入れなさいますように心からお勧めします。

まだまだ続きますのでお付き合い下さい。チャンネル登録もお願いします。
ではまた お目にかかりましょう。皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。